

表① BLCJ BIM オブジェクト標準 ver1.0

| | | |
|------|-----------------------------------|---|
| 形状情報 | 3Dオブジェクト[必須] | BIMによる3Dオブジェクト |
| | 2D外形図 | 1/20、1/50、1/100で使用できるもの |
| | 各種マニュアル、性能線図 | |
| | [3.5.1 運用と維持管理ゾーン]に基づく情報項目 | 設置とメンテナンス(作業スペース、アクセス空間、配置・輸送スペース、設置スペース、検出ゾンスペース等) |
| 属性情報 | BLC管理情報項目 [必須] | 企業コード、企業名、企業URL、分類コード、製品グループ、メーカー型番、型式名称、製品写真、3Dファイル形式、製品のリリース年月、製造停止年月、製品出荷対象国・地域、BLC標準バージョン、参照仕様書等バージョン |
| | BLC技術情報項目 [項目により必須、推奨、任意に分類] | 形状・寸法・重量、性能、設計に必要な技術情報、法令適合情報、性能評価・仕様情報、環境性能情報、FMに必要な情報、標準コスト情報等 |
| | [2.7 BOS一般]に基づく情報項目 [必須] | 作成者、製造者名、製造者URL、仕様書説明、仕様書参照、製品情報、改定、分類コード、分類タイトル、分類version、version |
| | [2.5 IFC]に基づく情報項目 [必須] / [推奨] | IFC4の共通プロパティセットBuildingElementProxyCommon、IFC2×3の追加情報。 具体には、buildingSMART Internationalのwebsiteに示されるプロパティセット |
| | [2.6.1 FMプロパティ]に基づく情報項目 | FMに関する情報を記載 |
| | [2.6.2 COBie]に基づく情報項目 [必須] / [推奨] | <p>■COBieで記載する事項</p> <p>名称、カテゴリー、説明、アセットタイプ、メーカー、製品番号、保証サービス担当組織、パーツ交換保証期間、パーツ交換保証担当組織、保証サービス期間、保証期間単位、更新コスト、期待耐用年数、期間単位、保証説明、公称長さ、公称幅、公称高さ、モデル参照、形状、サイズ、色、仕上げ、グレード、材料、構成、特徴、アクセスビリティ性能、サステナビリティ性能、法規性能</p> <p>■製品に関するCOBieの追記事項</p> <p>シリアル番号、設置日、保証開始日、タグ番号、バーコード、アセット識別子</p> |
| | [2.8 BOS証明]に基づく情報項目 | 製品等の性能を示す根拠となる仕様書システムコード、仕様書システムタイトルを記載。 |
| | [2.9 BOS環境]に基づく情報項目 | 製品などが取得している、環境評価システムコード、環境評価システムタイトルを記載。 |
| | 法令に基づく情報項目 | 製品などが認証されている防耐火性能、アスベスト含有、VOC性能等を記載。 |
| | [2.10 補足プロパティ]に基づく情報項目 | <p>・BS ISO15686-4への特徴的な選択と性能プロパティ</p> <p>・適用可能な場合、事前定義タイプに関連するIFCプロパティセット / 関連仕様書体系条項と適切なプロパティ名と値から成るプロパティ / 建設製品の製造者から成るプロパティ / ユーザー定義のプロパティ。2.3で概括されたグループ핑に適合しないプロパティは、理解を助けるために明確に命名する。(第5章 メタデータ要件を参照) / 製品の経済的、環境的影響を評価するプロパティ</p> |

表② オブジェクト標準が実現された場合の効果

| 項目 | 説明 | | |
|---------------------------------|--|--------|---|
| 建築確認との連携が可能になる | <p>例として、採光に関する確認審査の必要情報に関する検討では、次の手順と必要な情報が示されています。</p> <p>[手順1]建物用途、採光の適用を受ける居室 [手順2]採光対象居室の床面積の算出、施行令第19条第3項で定める割合 [手順3]採光に有効な開口部の面積の算定、採光補正係数(用途地域、当該部分の敷地境界までの水平距離等)</p> <p>これらの情報が、BIMソフトウェアにかかわらず、定義された情報項目にインプットされ、それをソフトウェアで正しく認識できれば、建築確認のプロセスが円滑になります。</p> | | |
| 標準仕様書等との連携が可能になる | 属性情報項目 | 記載例 | 窓の属性情報項目が標準化されると、左列の属性情報とその選択肢である右列の記載例の情報が、公共建築工事標準仕様書と同じになり、各BIMソフトウェアでもIDなどで共通に認識できるようになります。 |
| | <例として窓> | | |
| | 耐風属性 | S-4 | |
| | 気密性 | A-3 | |
| | 水密性 | W-4 | |
| | 枠の見込み寸法 | 70 | |
| | 表面処理の種別 | B-1種 | |
| | 表面処理の色(標準色 or 特注色) | 色合いは特記 | |
| 積算との連携が容易になる | 標準化により、必要な情報項目、定義等がBIMソフトウェアにかかわらず共通に認識できるようになり、自動的な数量積算が容易になります。 | | |
| 解析やシミュレーションなどの関連ソフトウェアの開発が容易になる | シミュレーションに必要な属性情報が、BIMソフトウェアにかかわらず共通に認識できるようになり、関連ソフトウェア開発が容易になります。 | | |
| ISOとの連携が図れる | ISOにはBIMに関連する標準が多くあり、それらとの連携が容易になります。代表的な標準としては、ISO 12006-2:2001 Building construction - Organization of information about construction works - Part 2: Framework for classification of information (製品、材料などに関する分類でUniclass2015、OmniClass) ISO 19650-1, 2 Specification for information management for the capital/delivery phase of construction projects using building information modelling (BIMのプロジェクト情報マネジメントに必要な標準) | | |